慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	自然災害が地域経済へ与える影響に関するミクロ計量分析
Sub Title	Impact of natural disasters on regional economy
Author	大久保, 敏弘(Okubo, Toshihiro)
Publisher	慶應義塾大学
Publication year	2018
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2017.)
JaLC DOI	
Abstract	日本の歴史的な企業データを用いて, 自然災害の企業や地域に対する影響を分析した。特に地域的, 空間的な側面から計量分析した。最近の自然災害の経済学において提唱されているのは「創造的破壊」仮説である。自然災害による大規模なショックのため, 資本は破壊されるが, 災害を機に資本が新しく更新され, 古い質の低い資本が一掃されるため, 災害後は災害前よりも資本の質が上がり, さらには経済成長をもたらすという仮説である。しかし, 自明ではなく, 産業集積地帯であれば集積の経済により, 高水準の資本が集まっているため災害にも強く破壊されにくい可能性がある。したがってこの仮説は自明ではない。多くの最近の研究ではマクロレベルや集計されたレベルが多く, 企業レベルでの検証も進んでおり, ある程度, 創造的破壊仮説は支持されている。しかし, 資本の質を直接的に検証した論文は他にない。本研究では, 横浜市と大阪市における製造業企業の機械の質に関するデータを収集し, 1923年の関東大震災前後での機械の質の成長を計量分析した。結果, 被災度合が大きい地域にある横浜市内の工場ほど, 資本の質の向上が大きいことが分かった。同様の分析を大阪市の工場のデータを用いて横浜市と比較した。この結果も資本の質の向上が大きいことが結論付けられた。いわゆる創造的破壊仮説の計量分析である。 This research project investigates the impact of natural disasters on regional economy. Our focus is on the improvement of capital quality in manufacturing firms after the natural disaster. Using the micro-level data of Japanese manufacturing, we test the impact of the earthquake of Tokyo in 1923. As a result, we find the growth of capital after the earthquake.
Notes	
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2017000001-20170162

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2018 年 4 月 9 日

2017 年度　学事振興資金（個人研究）研究成果実績報告書

研究代表者	所属	経済学部	職名	教授	補助額	300 （A） 千円
	氏名	大久保 敏弘	氏名（英語）	Toshihiro Okubo		

研究課題（日本語）

自然災害が地域経済へ与える影響に関するミクロ計量分析

研究課題（英訳）

Impact of natural disasters on regional economy

１．研究成果実績の概要

日本の歴史的な企業データを用いて、自然災害の企業や地域に対する影響を分析した。特に地域的、空間的な側面から計量分析した。最近の自然災害の経済学において提唱されているのは「創造的破壊」仮説である。自然災害による大規模なショックのため、資本は破壊されるが、災害を機に資本が新しく更新され、古い質の低い資本が一掃されるため、災害後は災害前よりも資本の質が上がり、さらには経済成長をもたらすという仮説である。しかし、自明ではなく、産業集積地帯であれば集積の経済により、高水準の資本が集まっているため災害にも強く破壊されにくい可能性がある。したがってこの仮説は自明ではない。多くの最近の研究ではマクロレベルや集計されたレベルが多く、企業レベルでの検証も進んでおり、ある程度、創造的破壊仮説は支持されている。しかし、資本の質を直接的に検証した論文は他にない。本研究では、横浜市と大阪市における製造業企業の機械の質に関するデータを収集し、1923 年の関東大震災前後での機械の質の成長を計量分析した。結果、被災度合が大きい地域にある横浜市内の工場ほど、資本の質の向上が大きいことが分かった。同様の分析を大阪市の工場のデータを用いて横浜市と比較した。この結果も資本の質の向上が大きいことが結論付けられた。いわゆる創造的破壊仮説の計量分析である。

２．研究成果実績の概要（英訳）

This research project investigates the impact of natural disasters on regional economy. Our focus is on the improvement of capital quality in manufacturing firms after the natural disaster. Using the micro-level data of Japanese manufacturing, we test the impact of the earthquake of Tokyo in 1923. As a result, we find the growth of capital after the earthquake.

３．本研究課題に関する発表

発表者氏名 （著者・講演者）	発表課題名 （著書名・演題）	発表学術誌名 （著書発行所・講演学会）	学術誌発行年月 （著書発行年月・講演年月）
大久保敏弘、岡崎哲二、エリック＝ストロブル	Creative Destruction of Industries: Yokohama City in the Great Kanto Earthquake, 1923(初版)	慶応大学経済研究所ＤＰ(分析の概要と歴史的考察)	2017 年 7 月
大久保敏弘、岡崎哲二、エリック＝ストロブル	Creative Destruction of Industries: Yokohama City in the Great Kanto Earthquake, 1923(最終版)	ジャーナルに投稿(詳細な計量分析を加える。改訂した最終版)	2018 年 2 月
大久保敏弘、エリック＝ストロブル	自然災害の地域生産可能性フロンティアへの影響	慶応大学経済研究所ＤＰに刊行予定	2018 年夏予定